

〔茶道筌蹄〕水道之部

茶巾 金指一尺に五寸、大の方は一尺五分に五寸五分也、むかしは近江上布を用ゆ、今は奈良晒布を用ゆ、

〔槐記〕享保十一年極月十五日、夜參候、茶巾ノコトモ、今ノ世ノ茶巾ハ、甚ダ幅セバシ、トリアツカヒガ仕ヨキヤウナレドモ、今御前家照近衛ナドノ御流儀ニテハ、イカイ違ヒ也、是モ若クハトリチガ

ヘニテハナキカ、心許ナシ、アノ幅ノセキ茶巾ハ、天目ノ茶巾也、天目ハ中バカリヲフキテ、外ヲフカヌモノ也、ソレ故セマキラ用ルコト也、

〔茶話指月集〕上、さる田舎の侘、利休へ金子壹兩のぼせて、何にても茶湯道具求て給はれと也、休この金にて残らず白布を買てつかはすとて、侘は何なくても、茶巾だにきれいなれば、茶はのめるとぞいひやりける、

〔雍州府志七土産〕茶巾 白布七寸許裁之、拭茶碗、是號茶巾、南都曝布雖用之、不及朝鮮照布、此布乾濕甚速也、京師室町卷物屋賣之、

〔茶道筌蹄〕五、集雜

茶巾筒 竹は利休形、染付類もよし、

〔茶具備討集〕水差

茶桶 餌チツ黃ツツ漁人具、以竹組、口開頸細、腹大而圓者佳、士請アジカ之、篠野人謂之黃也、船以小魚、黃爲取魚之餌、故曰餌黃、南蠻水差似之、故水差名餌黃、鷹癸之具名餌袋、非、

抱桶 半桶 引切 桔 反花

飯銅 飯 水續 湯瓶 煎茶瓶 篠耳 茶盆 雷盆 磬形 芋頭土物也、當世數寄者愛名之、

滋賀樂物 備前物

〔和漢茶誌〕注子

水壺也

金紫銅胡銅之屬、今俗名其器云、水指、

水指